

第 35 回電子情報化委員会 議事録（案）

日時：2008 年 9 月 16 日（月）15:30～18:20

場所：JCI 会議室

出席者：中村委員長、三木幹事

甲斐、金久保、兼松、高橋、田嶋、田所、八十島、吉岡の各委員
（事務局）五十嵐専務理事、井上、戸口

資料

35-0：電子情報化委員会（第 35 回）議事次第

35-1：第 34 回電子情報化委員会議事録（案）

35-2-1：他学協会におけるデジタルアーカイブ状況

35-2-2：電子情報化委員会 HP および委員会報告書担当の作成内容

35-2-3：研究委員会 HP 対応について

35-2-4：コンクリート工学論文集のデジタルアーカイブ化に関する検討

35-2-5：コンクリート工学誌のデジタルアーカイブ化について

35-2-6：メールニュースについて

35-2-7：投稿査読システムに関わる費用見直しについて

35-2-8：コンクリート工学年次論文集の電子化について

議事

1. 第 34 回議事録（案）の確認

第 34 回議事録（案）が確認された。

2. 新任委員自己紹介

吉岡委員から自己紹介があった。

3. メールニュースについて

(1) メールニュース登録者データ報告（事務局）

- ・ 2008 年 9 月現在で、約 1950 名（7 月より約 100 名増）。

(2) 紙面による登録申込について（事務局）

- ・ 今後、技士試験会場、技術講習会など配布、実施予定である。

4. 今後の活動計画について

(1) 三木幹事から資料 35-2-1 に基づき、他学協会におけるデジタルアーカイブ化状況に関する説明があった。

- ・ 土木学会では、「戦前図書・雑誌コレクション」、「歴史的鋼橋」、「基準類」等が web で公開されている。会員専用ページは、論文デジタルコンテンツ、名簿検索、会員情報変更が可能。

- ・ 日本建築学会では、「図面・写真集関係」、「仕様書・規準関係」等がデジタルアーカイブ化されている。会員専用ページでデジタルライブラリー、CPD、会員情報変更が可能。
 - ・ 土木学会、日本建築学会とも日本学術振興会（研究成果公開促進費）の援助による電子化が基になっている部分がある。JCI年次論文集の検索システムも同じ援助を受けて作成。
 - ・ 土木学会では会員専用ページで発表後1年経過した学術論文の全文閲覧が可能（2007年10月から20誌を試験的に公開）。ただし、発表後3年を経た論文は、会員以外の一般にも公開している（例外として、土木学会論文集、土木学会誌はJ-STAGE上で1年経過時に一般公開している）。一般公開の境目となる3年という期間は何に基づいて決められているのか、調査する（担当：三木幹事）。
 - ・ J-STAGE、Ni-CiNi（国立情報学研究所電子図書館サービス）でも学協会の論文等の閲覧が可能。登録から公開までどのように行われているか、これらの既存システムの利用のメリット・デメリット、利用の方法を調査する（担当：三木幹事）。
- (2) 田嶋委員から、資料 35-2-2 に基づき、電子情報化委員会 HP と委員会報告書の作業内容案の説明があった。
- ・ 電子情報化委員会 HP として、電子情報化委員会の活動報告（web 版報告書）、各委員の活動内容レポートを公開する。他団体（工学分野のみではなく、できれば広い分野を対象として）の電子情報化委員会の活動調査を行う。
 - ・ 委員会報告書として、目次、巻頭のことば等までを電子化して公開する。他学協会では3年あるいは5年経過後に委員会報告を公開している所もある。その理由を調査する必要がある。
 - ・ 2003年以降の各委員会報告書自体の Word または pdf は事務局で保有している。Web で目次等を公開しているかどうかは、事務局の対応者によって異なる。委員会報告書として配布していない資料（プレゼン資料等）を、会員専用ページで公開していくという方法も考えられる。
 - ・ 委員会報告は論文と性質が異なるので、公開の方法についても別途考えた方がよいとの意見があった。保有している電子ファイルを整理しデジタルアーカイブ化することの要否、公開するなら公開の方法、時期について検討する。（担当：田嶋委員）
- (3) 浅本委員作成の資料 35-2-3 に基づき、研究委員会 HP の実情調査および対応に関する検討内容の説明があった。
- ・ 対応については、更新を積極的に呼びかける必要があるだろう。委員会 HP がどの程度アクセスされ、必要があるか調査をしたい。年次大会や HP 等でアンケート調査を行ってはどうか。
 - ・ 研究会 HP トップページにカウンターを設置する、JCI トップページに更新状況を示す（現状では5項目のみしか示すことができない）、などが具体的な方法である。定期的に更新し、一般に活動内容を公開している、委員専用ページを設けているなど、積極的に研究委員会 HP を活用している委員会が着目されるようなシステムを作ることを検討する。（担当：浅本委員）
- (4) 椋山委員作成の資料 35-2-4 に基づき、コンクリート工学論文集のデジタルアーカイブ化に関する検討内容の説明があった。

- ・ 現状は紙ベースであるので、デジタル情報はない。14 巻以降は、概要とキーワードを JCI ホームページで公開済み。
 - ・ 国立情報学研究所論文情報ナビゲーター（Ni-CiNi）との連携が考えられる。
 - ・ 論文の著作権関係の整理が必要。
 - ・ 論文集編集委員会において電子化の議論をしてもらうよう依頼する必要がある。ここで、電子投稿に変更することは、非常に負担が多いものの、最終原稿を紙版と pdf など電子ファイルで同時に提出してもらうことは可能なのでは。編集委員会宛依頼文を作成する。また、**コンクリート工学論文集のデジタルアーカイブ化を理事会へ提案するための資料を準備する。また、デジタル化した場合の論文集のあり方（公開方法など）についても検討する。（担当：椛山委員）**
- (5) 兼松委員から、資料 35-2-5 に基づき、コンクリート工学誌のデジタル情報公開に関する検討内容の説明があった。
- ・ 全文を pdf 公開する場合は、著作権の問題が重要。html 化するには具体的な作業およびチェックをどのように進めていくかの手順の検討が重要である。
 - ・ 投稿者自身が html 化を望むようなストーリーの提案をしていきたい。編集委員会と連携して、web 公開のニーズをアンケート調査してはどうか。質問項目および依頼文の案を作成する。（担当：兼松委員）
 - ・ **現在のルーティンワーク（原稿提出、版組、校正）中で実際の作業がどの程度デジタル化されているかの現状を確認する必要がある。**
 - ・ 動画の表示を pdf に埋め込むなど、掲載方法もいくつかあるようなので、今後調べていく。
 - ・ **コンクリート工学には様々な記事があるので、記事を分類した上で、デジタル化の方策について検討する。**
- (6) 高橋委員から、資料 35-2-6 に基づき、メールニュースの今後の活動方針について説明があった。
- ・ 購読者数増加のための存在の周知（特に会員向け）、コンテンツの拡充（技術情報、技士のページ転載、Q&A 等）、速報的な利用への対応、等が考えられる。
 - ・ 会員向け購読者数獲得については、事ある毎に会員宛やり取り文書に入れ込むようにする。
 - ・ 登録者数 1 万人を目指し、メールニュースの登録を促進していく。
 - ・ **登録数拡大の方策を提案・実施するとともに、コンテンツの拡充やメールニュースの利用方法をさらに検討する。（担当：高橋委員）**
- (7) 八十島委員から、資料 35-2-7 に基づき、年次大会投稿システムの、主にハードウェア契約に関する事項について説明があった。
- ・ 契約業者（JPBS）と打合せを行った（9 月 16 日）。新規設置、レンタルサーバ（アイル）、再リース、JCI 設置、サーバ統合について費用を比較し、検討している。サーバ統合に関しては、アクセス状況を確認して検討することとしている。これらの項目の見直しから、費用削減の可能性を探る。契約更改は 2009 年 8 月。
- (8) 田所委員から、資料 35-2-8 に基づき、年次論文集の電子化に関する検討について説明があった。
- ・ 今後の作業として、印刷版の扱い、課金、システム構築に関わる費用検討が挙げられる。

印刷版の廃止に関しては、2009年2月に年次大会委員会に提案する（事務局）。

- J-STAGE、国立情報学研究所の利用に関してはコンクリート工学論文集と同様な検討が必要になる可能性がある。そのほか、デジタルアーカイブ化全般での議論と重なる部分も多いため、一緒に検討を進める。（担当：三木、田所）

5. 次回委員会

- 2008年11月末～12月中旬で、メールにて日程調整を行う。